

巻頭言

就任挨拶



野田俊治*

2009年7月より、前岡部道生編集委員長の後任として本誌の編集委員長に就任いたしました。

1925年から電気製鋼研究会が発行してまいりました「電気製鋼」は、社会環境の変化を受け、2009年の第80巻から大同特殊鋼技報「電気製鋼」（以下、本誌）として新しくスタートすることになりました。長きに渡りご尽力をいただいた電気製鋼研究会の諸先輩の皆様、ならびに新しく大同特殊鋼技報の発刊に尽力いただいた皆様に心から敬意を表します。

本誌は、旧「電気製鋼」のDNAを引き継ぎ、特殊鋼技術の普及を目指し、これからの激動する社会の変化に対応した特殊鋼にかかわる技術、特に当社および大同グループの幅広い技術を、これからも読者の皆様に特集号の形で年2回お届け致します。

2010年の第81巻では、本1号で金型技術特集を、2号で用途に主眼を置いた自動車用部材特集をお届け致します。本1号の金型技術特集では、新しい金型材料の他に、当社が開発に注力してまいりました、金型材料の周辺技術である表面処理技術や評価技術を盛り込み、幅広い技術を網羅した特集号としてお届けいたします。まず、並木邦夫理事に随想をいただき、表面処理技術や評価技術、さらに時代のニーズに対応した新しい金型材料（ダイカスト用金型材料、マトリックス冷間ダイス鋼、プラスチック用金型材料）の他、海外の金型事情を含め12件の記事を紹介いたします。

2008年9月のリーマンショックに端を発した世界同時不況は、新興国の経済成長に支えられ、ようやく回復基調に転じてきました。この大きな経済変化の中で、環境、エネルギー、資源をキーワードとする産業が、今後の成長産業として注目を集めています。特に、特殊鋼の最大の市場である自動車業界は、CO₂削減を目指した将来の燃費規制に対し、ハイブリッド自動車や電気自動車の市場投入を予想以上に早いスピードで進めつつあり、既にこれら環境自動車の電動化を支える電池材料やモーターの磁石材料などに大きな注目が集まっています。また、エネルギーでは、発電時にCO₂排出の無い風力や太陽光に代表される自然エネルギーの他、原子力発電も今後大きな伸びを示すことが予測されています。

今後、本誌ではこのような時代の変化に対応した新しい特殊鋼に関する技術や磁性材料などに関する新技術も含め、特集号の形で編集、発信していきたいと考えておりますので、読者の皆様の一層のご指導、ご協力をお願い致します。

*大同特殊鋼(株)研究開発本部副本部長